

出張報告

報告日 2026年 5月 27日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人・重野正毅
種 別	☒ 調査研究 (☐ 行政視察) ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	原子燃料サイクル施設の現状の視察
日 時	令和8年5月21日(木) 9:20～12:10
場 所 (会場)	六ヶ所村再処理工場
調査項目等	原子燃料サイクル施設の現状
概 要	○ウラン濃縮工場…窓越しにカスケードを見学、過程等の説明 遠心分離機の構造、5%まで濃縮する過程、劣化ウランの扱い、遠心分離機の開発、技術者の育成などの説明を受けた。 ○低レベル放射性廃棄物埋設センター…1～3号の現在の状況を見学 1号施設と3号施設には搬入を進めているが、2号施設は容量いっぱいになっている。1号施設は搬入とあわせ、初期に埋設した部分は土をかぶせて埋め戻ししている。1号施設すべてを埋め戻すまでには10年程度かかる。 ○再処理本体安全冷却設備竜巻対策工事を車中より見学 ○高レベル放射性廃棄物貯蔵管理施設…窓越しに見学、説明 最終処分場へ持ち込む前のガラス固化体を30～50年貯蔵しておくところである。最初に持ち込まれてから現在31年が経過している状況。 ○再処理工場主排気筒竜巻対策工事を車中より見学 ○事務本館で全体説明 ・再処理工場は今年度中に竣工。来年度の後半の稼働を目指して取り組んでいる。 ・毎日関連企業の方々はおよそ6600人、うち2000人がMOX燃料加工工場働いている。原燃社員は2800人程度いるので、毎日1万人弱の方がこの敷地内で働いていることになる。昼間はこの敷地内に六ヶ所村の人口以上の方がいることになる。 ・ウラン濃縮に関する技術、遠心分離機に関する機械、あるいはそれらの開発に関する研究のすべてが国産であり、人材育成を含めこの施設で行われている。ウラン濃縮の施設の規模はヨーロッパには及ばないが、技術力は

確実に世界一であるという誇りを持っている。



所 感 等

【三宮直人】

2年ぶりの訪問となった。再処理工場は今年度中に竣工、来年度後半の稼働を目指すとしており慎重に段階を踏み課題をクリアしながら完成に近づいていると感じた。再処理工場が稼働しない限り原子力発電所の安定稼働は望めない訳であり、このまま順調にその過程が進むことを期待したい。

低レベル放射性廃棄物埋設センター1号施設は、保管容量が限界に近く新たな保管品の搬入と同時に埋め戻しのための準備工事が行われていた。10階建てビル相当と思われる櫓（やぐら）を組みその下で埋め戻しの土砂が運び込まれること想像すると、原発プロセスの壮大さを改めて感じるところである。

濃縮ウラン工場、再処理工場とMOX燃料工場、低レベルおよび高レベル放射性廃棄物の保管施設が六ヶ所村の地に集中立地していることが危険ではないかとの指摘もあるだろうが、集中していることで運搬等での危険を軽減し効率的な事業運営にもつながると考えられる。こうした特徴を活かし安全で安心な稼働を望むものである。

【重野正毅】

六ヶ所村にある再処理工場には毎年のように視察に訪れている。去年は特別委員会での視察として、むつの中間貯蔵施設もあわせて視察したが、それ以降大きな更新がないため、今回は六ヶ所村にある施設だけにした。

再処理工場の竣工を今年度、稼働を来年度に控えていることもあるのか、施設内も緊張感と活気にあふれている様子を感じた。私個人として今回はウラン濃縮工場の状況に強い関心を持って臨んだ。このウラン濃縮というと現在の世界情勢の中で注目を集めているところである。その機器や開発技術にあたってはすべて国産ということであり、特にその人材育成は大きな意味で国の存続にもかかわる極めて重要なところではないかと考えている。

原子燃料サイクルという様々な分野のトップ技術が集約されているところの人材育成の考え方やその取り組みはもっと注目されてもいいように思えた。